2017年1月

初買ひは新鮮野菜の福袋	朝靄に冬鳥集う佐鳴湖(うみ)
底冷えの朝に母の手懐かしむ	木枯しや大崎の磯波高し
元旦の静かさ無想正座する	図書館の席を占めてる高齢者
温くぬくと炬燵潜りて長電話	国際不和平和の行方不安増し
咲き初めしロウバイの花馥郁と	健康法逆説新説惑わされ
麦踏みの速さ競ひし遠き日々	裾上げをまたくり返し老いを知る
閉校に思い出巡り去りがたく	久々に涙涙でテレビ観る
郷土食餅の型は丸四角	無農薬こだわりながら医者通い
勝鳥に縁起担いで拍手打つ	歯の上でいつまで噛めるフランスパン
朝晩の冷え込み強くだるま型	保護主義者トップに立って先混迷
風花に舞いおどりくる小鳥たち	綱の味やっとつかんだ稀勢の里
大寒の朝日に南風(はえ)る木の葉かな	法螺吹きが空振り三振ＴＰＰ
高齢の身に耐へかねる寒さかな	今年また駅伝三昧駅女です
枯蘆の彼方に浮ぶ富士の山	ドラマです快走蛇行命がけ
海鳥や遥か雪山佐鳴湖(うみ)	ノーカーの世に住めぬと事故起し
束の間を黄金にそめし佐鳴かな	まだ五時だもう一眠りもう九時だ
台風で庭木負けずに戦えり	お坊ちゃままた茶番の迷演技
この世には吉事多かれと祈りつつ	ＴＰＰ相手にされずポシャリけり
雪つもり吉事重なる夢を見る	

2017年２月

松飾り納めて一年無事祈る	梅が香に誘われ行かば無人駅
しぐれ降る野面芽吹きて静かなり	ほんのりと梅の香匂う夜の小道
紐とけば笑みこぼれしやひなの顔	真夜中の居酒屋にぎわう金曜日
豆拾ひ子らのあと追ふ夫婦傘	保険証忘れて受診万が飛び
肌寒し母の残せしベスト着る	孫との和年寄意識相よらず
猫が出てほっこり和む龍潭寺	防衛相ファッション都知事と比較され
春一番枯枝とばし暖運ぶ	ＡＴＭやっとの操作老い進み
綿帽子ミニカマクラに夢世界	降圧にチョコが効くとて買い貯める
ガラス窓朝日反射し黄金箱	病院はマイクで名前呼び込みす
「美味しいよ」遠祖に声かけ供え膳	何回も話したはずが「初耳よ」
早過ぎた満開とまどう寒さかな	景色よりトイレが気になるバスの中
絵筆おき水仙の香や墨をする	むなずもり月末金に矢も折れる

キムチづけ白菜洗う冷たさよ 沈丁花ほんのり香り春うらら 庭先で騒ぐ野良猫春隣 朝日さす木々のそれぞれ春つかむ	ひろさちや八分納得二分離反 マスコミは尾鰭を付けて馬鹿にされ 耐寒に句も浮ばずに脳低下 耐え忍ぶ苦労もいつか報われむ

2017年3月

窓閉めてマスクにメガネ春うらら 植木市消えて夜店のもの足らず 仏の座光差し込む小花かな 雪も解け草木も芽吹き春雷も 軽井沢凛と聳える大賀ホール 若者が意外と多き草津の湯 瀬戸内の波静かなれど春遠し 野球相撲とスポーツの春うきうきと 枝垂れ梅池に被さり競い咲く 春雨や空いっぱいに虹描く 寒さ去りほんのり苦味春野菜	マネキンが淡き色着て春めけり 腕病みて眠れぬ夜や彼岸寒 路地往くや沈丁花の香ついてくる 手袋も務め終えてや　春の風 恋猫の足どり重く帰還せし 厳冬越え春のパンジー誇らしげ 同窓会八十路過ぎても夜を明かす 友見舞うあすは我が身とも思う アッキーにドがつけば大事件 ほしいものたれもが買えた過去の国 可処分の時を持てたるこのゆとり

2017年5月

深きもや木立静かに芽吹きおり 春雷を聞きつ昼餉の支度する 花びらを一二（ひいふう）数へて春往かむ 仲良しの友また逝きぬ桜散る 小雨降り色鮮やかな庭のバラ 親孝行済んだ気でいるカーネーション 霞む丘東京の街浮き上る 陵拝す雀隠れに蛇のゐて リフト行く吹かるるほどに山笑ふ 花疲れ日輪燃えてバス包む 湖北の夏直虎直虎の声しきり 知らぬ間に筍立派な竹となり 気にかかる燕の数空を見る 人知れず群れ溢るる月見草	初夏の夜清浄の本読み漁る 全集を棚に並べて捨てられず 目薬を差すのになぜか口を開け 外出は眼鏡補聴器義歯携帯 風吹けばポテチが消える世の変化 廃炉への道険しくも再稼働 麻痺してる樽酒浴びても水のごと 息詰めて犬に目薬手の震え お役所の吏員食堂母の味 業師宇良相撲人気をいや増して 同窓会昔話で若返り 最新機器使いこなせぬもどかしさ 八十路にて兼好の辱思いだし ブツブツと文句を言いつニュース見る

2017年６月

初摘の想い出遠くお茶の里	介護には優しい人が負けるなり
残り花散り緑の佐鳴湖夏を待つ	眼を覚まし夢心地の中白みゆく
半夏生随所に群生森町で	空梅雨に天気の崩れ恐怖増す
庭先に小鳥遊びし旱梅雨	結果出て想定の逆先混沌
夏雲か富士を小出しに居すわりて	佐鳴湖畔一本の道土の道
新緑や朱印が誘ふ寺社巡り	菜園の曲り野菜もご愛嬌
挿絵描く田植え姿にどまどえり	菅笠も痛みひどくなりにけり
鈴虫の孵化始まりて安堵する	知っていて怪文書だとすっとぼけ
風薫るつばめの巣あり軒ごとに	松陰をテロリストと言う勇気
珈琲の香り流れる三時草	崩したい鉄板レース県知事選
旧友と健在確かめ尽きぬ語らい	荒れ模様シトシト雨が懐かしい
まだ来るな三途の川の渡し舟	海外でいつかは見たいジャカランタ
歯がたたぬ昔はこうだとまるめられ	自信過剰か支持率下がる安倍総理
あらいかん妻を毒と書き違え	終活は写真着物とゴミの山
味のない煮ものも妻の思いやり	あかね雲鳥もねぐらにまっしぐら

2017年7月

燃えつきる花の命に水を撒く	一輪車子どもはうまく親出来ず
漬け茄子の色の青さにおかわりを	採りたての瓜を音たて食べる嫁
暑い夏天災地獄祈るのみ	白鵬の雄弁努力見直して
夏風に可睡の百合が揺れている	老いし足近距離詫びてタクシー乗り
家康くんバンから登場夏祭り	答弁に疑惑はぐらす記憶無し
蛍川星の数ほど乱舞する	世を変える裏に廻ってボロが出る
土砂災害むなしさ分けた夏の空	欲しい雨続き過ぎて大混乱
名古屋場所若手の頭角いちじるし	今を見に街中歩き心晴れ
冷たさがご馳走になるこの暑さ	流通がヒアリ･マダニのグローバル化
喪の庭に白き木槿の花揺るる	浜商の勝利の女神破れたり
早起きの蝉に今日の暑さ聞く	かわいいがバブルな値段猫ブーム
街路樹で涼を取りつつ立ち話	火だるまでアーオーばかり某大臣
高齢の身に耐えかねる熱帯夜	人生はつまらないからおもしろい
佐鳴湖の花火待ちつかや星月夜	汗のシャツ脱げばあらたな汗をかき
ジャカランタの花弾む子らの声に舞い	鉢抱え年取ったなとひとりごと
温度計にらんで迷う散歩かな	ごきぶりも殺気感じて右往左往
犬よりも安いぞ俺の床屋代	

2017年8月

夏盛り冷えて汗かくラムネびん	奥さんはお茶してくると三時間
夕風にチリンと風鈴秋を呼ぶ	遠島を申し付けると鬼の妻
「よう鳴いとる」声よみがえる星月夜	核傘下ノーと言えない被爆国
朝顔の濃き紫に目覚め嬉し	詩人でも軍歌を作り金稼ぐ
雨が降る雨情の詩の夢遠し	兼好の辱多しより倍の歳
草引けば顔にまつわる蚊の憎さ	人の世は無理に曲げても常軌道
朝七時花火が決定夜空咲く	乱気流土砂を流して生活麻痺
熱中症自慢の体に黄信号	AIをうまく使って理想郷
風死して街はサウナに変りけり	小野但馬死に顔すらも美男なり
滴りの古道よ涼の独り占め	犬病院しばらく茶漬けでがまんする
誕生日祝いもうすれ歳重ね	電話来て機械の声のアンケート
八千歩佐鳴の散歩今は夢	核兵器廃絶祈願原爆忌
眠れぬ夜アロマの香りで寝に付く	鈴虫も昼寝するのか午後三時
同じ文字惚れる惚けるも歳の性	安倍さんも何とも出来ぬこの暑さ
花嫁も進化をとげて角が生え	

2017年9月

久に来る客待ち顔に桔梗咲く	朝ドラを孫と見ている夏休み
朝顔のつるを片づけ秋迎え	長き夜や友への便り書き終わる
黄昏の阿蘇の高原雲なびく	野分立ち荒れ狂ふ夜半ひとり寝る
ひと夏終え朝顔残花二つ三つ	年寄りはあの手この手で詐欺の的
早朝の太陽を仰ぎおり秋深く	安楽だああ安楽だ　妻が留守
佐鳴湖畔弁当広げ絶景なり	金よりも大事ありと金持ちが
友と行く葦毛湿原草紅葉	朝刊のみだしだけ読み家を出る
萩の花水面にゆらぐ夕空と	歩きたいけねくね体操信じきり
秋場所は若手力士の登竜門	砂かぶり高温の下夢心地
栗飯を炊いて今宵も皆笑顔	二〇〇万長寿の人に仲間入り
日毎増す足の衰えこの暑さ	若返り話題も変わる昼ワイン
ひょっとしてセンサー付きかも彼岸花	転びし子鼻血の色のきれいさよ
鯊天に誰とは無しに舌鼓	便利もの起動が遅い早くして
鯊釣や親子仲良く並び居る	小石無し平坦な道躓いて
枝払い木々も心も軽くする	束の間の夢にドキドキスクラッチ
ポンポンと土手に挿すごと曼珠沙華	五十二円舞い戻ってき訳を知る

萩しだれ影揺らめけり寺の庭	危機煽り軍事費アップ願う人

2017年10月

肌寒しけむる水面に渡り鳥 秋深し去りしかの人わびしさよ 栗さんまうれしい季節太り気味 花芒ちょんまげにして犬元気 眠られぬ高なる鼓動大台風 吾が帰り待ちかねて旅立つ鈴の音 何気なくぬいぐるみ置き部屋温し しなやかにその身任せる木立かな 菊作りようやく見頃ほほゆるむ 雨あがり庭にひろがる傘の花 孫からの珍味届いた敬老の日 野分けあけ雲も吹きとび晴れ渡る 口きかぬ案山子何でも知っている 久延毘古(くえびこ)の依(よ)り代(しろ)なりや案山子群	新涼の竹の葉擦れや龍潭寺 名月を待ちて窓辺で茶を点てる ウォーキング湖の秋風を楽しめり アイフォンテン使いこなせぬ高機能 O-ne-day(オーネーデイ)に教官怒る学生に 傘寿だが恩師の前では女子学生 惚れ込んだ昔と違い妻肥満 政治家は野に咲く花のようであれ 菜園の隣りと競う出来不出来 言いなりにならない孫に望みかけ 小池さん排除の言葉で排除され 又選挙理解出来ずに義務果たす 怪我をして茶も入れられずオイと呼ぶ

2017年11月

はっきりと木の葉の色で秋が来た 目もあやに山彩られ絵の如く 湯豆腐の湯気に包まれ一刻の倖 こがらしの吹く夜はさみし夢の中 赤と黄右と左に空も分け 白線を延びる両側木々粧う ミニ薔薇や似合って嬉し狭き庭 秋の宵少し贅沢玉露の香 散歩道どんぐりが押す足のツボ 冬の日を集めて小菊今盛り 何もせず過ぎ行くままの師走かな 白糸の飛沫きらり秋の虹 秋気満つ湖にうすうすと逆さ富士 バスの窓釣瓶落しや里明かり 柚子の香や友の温もり湯に浸る 野ぼたんの花びらはらり芝の上	リタイア後のんびり勤労感謝の日 貴乃花江戸の仇を九州で 三成は美男の形しゃれこうべ 大相撲立った二人にこの騒ぎ トップ取りストレス消えた麻雀で ワンピース全員総立ち吾も立つ 自己流の健康食の効果待ち 夫(つま)米寿自慢の視力総くずれ 一年の過ぎる速さに年おぼえ 悪友と互い呼び合う大の仲 豊かかな食うためにだけ働かず これ飲めば老化防止と踊らされ 青い鳥こころの中に宿りけり グランドゴルフ草あり石あり笑いあり 思い切りやってみたいとグズが言い

布団干しくるまる夜の待ち遠し	あの時は働かずば生きられず

2017年12月

眺めいる鉢植え青菜摘むが惜し	ぐらぐらと正月を待つ前歯かな
紅葉や冷雨に耐えて尚紅く	陽だまりにからだ寄せ合う猫二匹
枯葉舞い山茶花も散り時は過ぎ	好奇心薄れて老いて静かな日
朝寝坊外はこがらし夢の中	セーターを一枚買ってクリスマス
遺跡路にイチョウが大威張り	少ないが定額払う散髪代
ライティング幻想的な草津の湯	朝寝坊半日ずれて生きている
冬支度何とか済ませ安堵する	平和都市核廃絶冬眠さす
息災や今朝も山成す落葉掃く	忖度の意味共謀となり哀れ
大木の大地を染めて銀杏降る	平和だね猿だ猿だと騒ぎ立て
高台寺池面に透ける龍田姫	雨憎さ犬も布団でふて寝かな
石臼に餅つく若者伝道者	昔遊び夢中で興ずる小供達
廃屋や紅に燃ゆ蔦かずら	年賀状年に一度の情報元
小春日や潮の如く子らの声	日本海そぐわぬ明るい添乗員
いろいろと師走の空に思い馳せ	若者の「させていただく」待ったなし
穏やかや死なず生まれず年の暮	場外は仕切り直しの土俵